

日南市長 崎田 恭平 様

提 言 書



令和元年度 議会報告会「市民と語る日南市議会」【令和元年11月】

令和元年12月

日南市議会

市民の声を反映させるための提言書

日南市議会は、日南市議会基本条例第7条の規定に基づき、「議会と市民との連携を高める方策」として、平成26年度より議会報告会「市民と語る日南市議会」を毎年開催しております。

6回目となる本年度の議会報告会は、11月7日、8日、13日の3日間、市内3会場において、総勢73人の市民の皆様のご参加のもと開催し、直近の議会活動報告のほか、「市役所新庁舎」をテーマとした意見交換、市民の多様なご意見に対して意見交換を行ったところです。

昨今、各種選挙における投票率の低下からみても、市民の政治に対する関心が低くなっているものと憂慮しているところでありますが、ご参加いただいた市民の方からは、市政に対する熱いご意見を多数いただき、市民の方の市政に対する期待は非常に高いものと確信したところです。

今後、更に市民の政治関心を高め、市政に多くの市民が関与していく環境をつくっていくためには、我々議会は、常に市民と同じ目線に立ち、市民の意見に耳を傾け、それらの声を目に見える形にする政策提言を行なうことが重要であり、これが市政の発展及び市民の福祉向上につながっていくものと考えます。

今回の議会報告会において、市民からいただいたご意見を議会としても真摯に受け止め、広報広聴委員会及び全員協議会での協議を経て、このたび、市長へ提言を行うこととしたところであります。

市長におかれましては、本提言が日南市議会の総意であることを受け止められ、今後の政策形成に反映されるよう、強く要望いたします。

なお、この提言の検討結果等については、以後の議会において確認しながら関連議案等の審議を進める予定ですので、ご承知置き願います。

日市議発第76号
令和元年12月24日

日南市長 崎田恭平 様

日南市議会議長 濱中武紀

1. 新庁舎建設について

現在、基本設計が進められている新庁舎建設については、市民より「庁舎付近の水害を含め、想定外の災害にも対策が取られているのか。」と防災拠点としての十分な機能を果たすことを求める意見や「利用者（市民）や職員の意見集約は行っているのか。」といった質問があったほか、旧町地区の住民からは、「市は、中央に行政機能を集めようとしているのか。このままでは、旧町域はどんどん寂れていくのではないのか。」と危惧する意見もあったところである。

新庁舎建設においては、これまで議会が提言している「身の丈にあった庁舎」とすることはもちろん、人口減少・災害などのあらゆる事象を多面的に検証したうえで設計・建設を進めるとともに、旧南郷町総合支所建物の取扱いや両地域振興センターの今後のあり方を同時に市民に示し、「全市民のための新庁舎である」ことを理解いただけるよう努めていただきたい。

2. 漁業の経営保全について

かつお一本釣りをはじめとする漁業においては、不漁や魚価安による漁獲金額の減少による経営悪化が懸念され、市民からも「鰹の漁獲が不漁に陥っている。10数年前からの鰹価格の下落や検査・整備・燃料費の高騰で、このままでは漁師がいなくなってしまう。」、「日本一のかつお一本釣りを守りたい。」との切実な声が上がったところである。

そのような中、令和元年第5回定例会において、これらの声に応える漁業対策予算が提案されたことは、評価をするものである。

地球温暖化による海流の変化など厳しい要因が山積しており、漁業は今後も厳しい状況になることが危惧されることから、課題発生時には今回同様、速やかに対策が講じられるよう、今後も状況を注視し、適切な政策形成に努めていただきたい。

3. 低利用施設の利用促進について

市が保有する施設の低利用施設について市民から質問があり、特にI t t e nほりかわビルに整備したクライミング施設については市民から「利用者が非常に少ない。」、「大会などを開催する計画だったのではないのか。」と、もっと活用頻度を上げるべきとの意見があったところである。

当該施設に限らず、市が保有する施設で利用頻度の少ない施設については、その利用内容や維持管理経費等の現状分析を行ったうえで、市が直接管理運営する施設については市が、指定管理者によって管理運営されている施設については、指定管理者はもちろん、市もアイデアを提供するなど、公共施設の利用促進に向け、効果的な対策を講じるよう努めていただきたい。

4. 豪雨等の排水対策について

今年5月の豪雨では、南郷町中央町など市内各地で住宅の浸水被害が発生しており、南郷地区の住民からは「くろしおの里まで、あと2メートルのところまで水が迫ってきた。」「栄松・脇本・上中村地区の排水が中央町の田んぼに集まり、増水して危険だ。」「市は人的被害が出ないと対策を講じないのか。」との意見があったところである。

このような意見に対し、令和元年第4回定例会の一般質問における総合政策部長答弁にあった「現地調査あるいは自治会長の聞き取り等を行っている。現地において自治会長さん達も交えて検討を深めないといけないと考えている。」との市の考えを伝えたが、議会報告会に参加していた自治会長からは、「市からは協議する場を設けられていない。」との声があった。

近年の集中豪雨においては、南郷地区に限らず、市内各地で住宅地での浸水被害が出ていることから、令和元年第4回定例会の一般質問では総合政策部長から「ハード・ソフト両にらみで浸水に備える」と、第5回定例会の一般質問では市長から「現在策定中の国土強靱化地域計画において、水害対策についてもハード・ソフト両面の観点から盛り込んでいく」との答弁があったように、その対応については、早急に地域住民の声を聴取し、効果的な対策を講じるよう努めていただきたい。

5. 工業団地整備（北郷地区）について

市当局においては、北郷地区に新たな工業団地を整備すべく協議を重ねてきた中、近年の全国的な豪雨災害等の影響もあり、企業側のニーズを改めて検証する必要があることからゼロベースで検討しなおすとのことであったが、新たな工業団地の整備については、市内既存企業の規模拡大や新規企業の誘致に対応できるよう、また、東九州自動車道のストック効果を発現するためにも早急に対応しなければならない。

そのような中、北郷地区住民からは「工業団地は必要だが、農地も守る必要があるのではないか。」「農地も必要だが、東九州自動車道を活かした工業団地整備が必要だ。」といった『工業団地は必要』だがその整備地について二分する意見があったところである。

このことから、工業団地整備予定地の選定にあたっては、造成に伴う経費や企業の利便性を考慮することはもちろんのこと、農地等を転用する場合には、将来の農業等政策の展望までも見据えた検証を行い、これらの検証データを基に住民の意見を聞き、理解を得られるよう努めていただきたい。

6. 市道今町仮屋線（日南振徳高校前）の整備について

市道今町仮屋線（日南振徳高校前）については、市において鋭意整備が進められているところであるが、日南地区の住民から「未来ある高校生の事故を防ぐためにも、早急に整備して欲しい。」との意見があったところである。

県道元狩倉日南線から糺公民館付近交差点間の整備については、平成30年第6回定例会の一般質問において、建設部長より「地権者との用地補償交渉が難航しているが、粘り強く進めていきたい。市としては平成32年度までにはやりたい。」との答弁があったとおり、現在も鋭意努力されていることは承知している。

しかしながら、市民から、糺公民館付近交差点から日南振徳高校までの路線についても整備して欲しいという声があることも事実である。

市道整備については、緊急性・重要性等を考慮して順次整備されることと推察するが、早々に整備対応ができない状況であれば、市民にもその旨ご理解をいただくよう丁寧な説明に努めるとともに、児童・生徒の通学等、交通の安全性が保たれるよう、引き続き努力していきたい。